

科目	日常生活活動学実習(OT)	担当	藤田 高史, 林浩之	履修学年	3年
時間数	90分×時限×24回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

**【授業目標・到達目標】**

日常生活活動アプローチの基本である、基本動作(起居・起立・移動動作)とセルフケアに対して、障害が及ぼす影響に対する考察とそれらの自立に向けた援助・介助方法を修得できる。  
 障害の改善や残存能力を活用し、対象者に適した機器、自助具の適用や工夫について、作業療法が対象とする主な疾患に対する具体的な知識・技術を獲得することを目標とする。

**【履修注意】**

実技授業は2～3名のグループに分かれて実技を実施する。グループ編成については初回に指示する。運動着を準備すること(スカート、ジーパン不可)。なお、予定を変更することがある。

**【評価方法】**

期末試験(筆記試験と実技試験)、出席状況、応答内容、課題レポートなどを総合判定する。

**【試験について】**

試験は期末試験として筆記試験・実技試験を行う。

実技試験については臨床能力試験OSCE形式で施行する。

再試験対象者の条件:出席日数を満たしていること。課題を提出していること。

**【予習・復習】**

項目内容が変わるごとに、各自、復習をしてまとめておくこと。

**【教科書】**

書籍名:「新イラストによる安全な動作介助の手引き第2版」 著者:川井伸夫ら 出版社:医歯薬出版

書籍名:「福祉用具ハンドブック」 著者:尋木佐一・他(監修) 出版社:大井企画(生活環境学OTと同じ)

書籍名:「ADLとその周辺第2版」 著者:伊藤利之, 鎌倉矩子編 出版社:医学書院(2年次購入済み)

**【参考書】**

講義中に示す

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1・2	実技・ADLの介助法①	ADLに影響する中枢疾患症状, 起居動作の介助(実技)
3・4	実技・ADLの介助法②	床動作, 床からの起立動作の介助法, 車いすの適合と操作方法
5・6	実技・ADLの介助法③	座位姿勢, 椅子からの起立動作, 移乗動作の介助法
7・8	実技・ADLの介助法④	嚥下障害とその対処法
9・10	実技・ADLの介助法⑤	脳血管障害者の整容動作, 排泄動作, 更衣動作屋外での車いす, 段差越え介助と杖介助の実施
11・12	実技・ADLの介助法⑥	脳血管障害者の整容動作と入浴動作の介助法, 排泄障害について
13・14	実技・ADLの介助法⑦	歩行補装具と歩行介助, 移乗動作, 階段昇降の介助法
15・16	動作分析	セルフケアの動作分析
17・18	講義・脊椎損傷者のADL	脊椎損傷者のADL介助・訓練法と環境整備(外来講師)
19・20	講義・特定疾患のADL介助法	脊髄小脳変性症, 筋萎縮性側索硬化症のADL介助法
21・22	福祉用具・自助具の作成	自助具のデザイン考案と身近な材料を用いた作成技術の習得
23・24	まとめ・実技試験	ADL介助については, 臨床能力試験(OSCE)形式で実施する
13		
14		
15		
16		